



## センターニュースをお読みの皆様へ

2020年2月から新型コロナウイルス感染症対策のために、病棟間交流の制限やご家族の面会制限など、数多くの制限・制限・制限…。皆様に多大なるご協力をいただいております。2023年5月からコロナ感染症が5類となり、わいわい祭りを始め牛歩ではありますが島田療育センターも少しずつ制限解除を始めています。制限されているイベントの中で大きなものの一つとして病棟の大遠足があります。この10月に3東病棟が先陣を切って、大遠足に行っ

てまいりました。会場はパルテノン多摩の室内で3チームに分かれてポッチャ大会を行いました。久しぶりのバスから降りての活動やイベントで皆さん大変盛り上がりました。ここからさらに、最終的には制限の全面解除を目指して職員一同尽力してまいります。



医務部長  
中村 由紀子

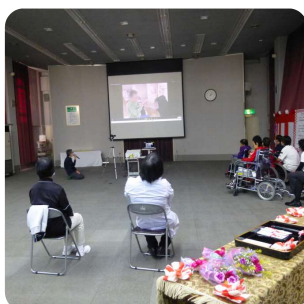


## 還暦・古希のお祝いを開催しました

11月20日(月)・21日(火)、当センターで還暦と古希を迎えられた9名の利用者様を対象にお祝いの式典を実施致しました。感染予防に配慮して病棟毎のお祝いとなりましたが、それぞれの催しを全病棟に中継し、センター全体に式典の雰囲気をお伝えしました。

各病棟を装飾し、お祝いの昼食メニューをご用意しました。各病棟の趣向を凝らし、気持ちを込めたお祝いのメッセージと御家族からの感謝と温かい励ましの言葉に、勇気づけられる思いがしました。

還暦・古希の皆様、本当におめでとうございます。  
(編集委員 清水 信夫)



## 第48回 重症心身障害学会学術集会に参加しました

第48回日本重症心身障害学会学術集会が10月26日(木)・27日(金)に千葉で開催され、当センターからも以下の演題を発表しました。

## ポスター発表

- P1-A4-2 小林弘治  
重症心身障害者施設における褥瘡発生状況の報告
- P1-B2-2 和田聡美  
重症心身障害者への視線入力装置を活用した関わり—実情から今後の可能性を検討する—
- P2-A5-6 三瓶果林  
当センターにおける COVID-19 検査とクラスター
- P2-A7-1 高橋美智  
片頭痛と思われる嘔吐にガバペンチンが著効した水頭症の1例
- P2-A7-2 嶋田祥子  
難治性てんかんを有する重症心身障害児(者)にケトン食療法を実地した一例





9～11月に行われた行事の様子を各担当者よりお知らせいたします。  
(編集委員 清水 信夫)

第1病棟  
大遠足

10月24日(火)、25日(水)に大遠足を行ないました。今年のテーマは「なぞとき!」でした。また、大遠足では久しぶりにバスドライブをしました。室内では謎解きの他にも布を使用して花火の映像を立体的に映し出したり、おかしな洋館で大きなお菓子を見て甘い香りも楽しみました。両日とも天気にも恵まれ、気持ちよい天候の中で、いつもの活動とは違った雰囲気を楽しみました。



第2病棟  
大遠足

今年の大遠足は『テーマパーク(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)に行こう!』というテーマで行いました。厚生棟を3つのブースに分け、実際にあるアトラクションのようにマリオのテレビゲームやミニオンのボーリングゲーム、ジョーズの映像鑑賞をしました。また、ぬいぐるみやパネルを背景に、素敵な写真を撮ることができました。利用者様は明るい雰囲気の中、楽しむ事ができました。



第3病棟東棟  
大遠足

「コロナ前のように、皆でバスに乗ってお出かけしたい」「分教室でのポッチャ体験がとても良かったので、またみんなでポッチャをやりたい」という思いが合わさり、今年はパルテノン多摩で大ポッチャ大会を行いました。日々病棟内の活動でポッチャの練習をし、チーム名を決め、応援グッズを作り…準備から利用者様も皆で関わりました。当日は、パルテノン多摩で1人1人声援を受けながらボールを転がし、大熱戦となりました。



第5病棟一班  
大遠足

チーム対応ゴルフ対決で楽しみました。最初は道具づくり! ドライバーや特製発射台などを、その場で作りあげ、実用的なものから、派手な飾りがついたものまで、たくさんできあがりしました。さて肝心の「ゴルフ対決」と言うと、どのチームも奮戦したものの、アルバトロスを連発したチームが、堂々の1位となりました。打ち出す一打に、一喜一憂して、盛り上がった大遠足でした!



第5病棟二班  
大遠足

センター史上初!? 移動販売業者の「ふくまる」さんを招いて、センターにしながら、買い物を楽しみました。今回は衣類を中心に揃えていただき、その場で手に取りながら、買いたいものを選びました。「このデザイン、いいね!」、「ちょっとサイズが合わない…」などの会話は、コロナ過で遠ざかっていた買い物活動を思い出させ、初めての体験ながら、懐かしい時間となりました!



第6病棟  
大遠足

今年の大遠足は「ジュラシックパークへ行こう!」をテーマに9月28日(木)、10月12日(木)の2日間行いました。「卵さがしゲーム」や「ジュラシックパークライドの乗車」、iPadを使って「恐竜との写真撮影」など、ジュラシックパークの世界を満喫しました。最初は恐竜に驚いたり、少し怖がる利用者様もいましたが、大遠足が終わる頃には自分から握手をするなど、みんな恐竜が大好きになりました。



第7病棟西棟  
大遠足

11月2日(木)に大遠足を行ないました。『沖縄へ行こう!!』をテーマに、「朝の海辺の空」「昼の果物狩り」「夜の海辺の星空」を五感刺激で体験していただきました。空色のパラバルーンと沖縄の陽気な音楽を楽しみ、南国果物の中にある「沖縄のことわざカード」で沖縄の文化に触れ、プラネタリウムで星を眺め、波間に浮かぶ良い香りのするカプセルやスライム入りのカプセルで香り・色・感触を楽しみました。皆さんで病棟外に集って、笑顔で楽しいひとときを過ごすことができました。



家族向け発達支援講座

子どもの見る力を伸ばす

～読み書きが苦手な子どもへのビジョントレーニング～

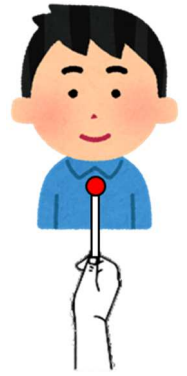
9月4日(月)に家族向け発達支援講座『子どもの見る力を伸ばす～読み書きが苦手な子どもへのビジョントレーニング～』をバルブ永山にて開催し、12名の保護者の方にご参加いただきました。

講義では、読み書きに関わる視覚情報処理の力についてお話しし、読み書きの苦手さを疑似体験をしていただきました。また、家庭でできるビジョントレーニングと学習場面における支援の手立てなど、お子さんの苦手な部分を“伸ばす”支援と“補う”支援についてお

伝えました。参加された保護者の方からは、「子供の困っていることを体験できたのがとても良かった」「自宅でもすぐに出来そうな練習を、自分もやってみながら知ることができて良かった」といったお声をいただきました。

この講座を来年度以降も継続的に開催し、お子さんの抱える苦手さや効果的な支援について、保護者の方に理解を深めていただけるような機会としていきたいと思います。

(公認心理師 足立 実)



さいわいこどもクリニック様への

出張スヌーズレン

10月15日(日)、立川にあるさいわいこどもクリニックのお祭りに「出張スヌーズレン」として参加させていただきました。

当日は朝方強めの雨が降っていましたが無事に到着。到着するなりスタッフさん、ボランティアさん総出で用具を運んで下さいました。診察室を2部屋使わせて頂き、光を楽しむバブルユニットの大きなものからピンシャー等々沢山の感覚グッズを置いて来室された方々に興味のあるもの、好きなものを見聞きしてもらったり、手に取ってもらったり、思い思いに感じていただきました。

また、待合ホールにはオミヴィスタを置かせてもらいましたが、こちらにもお子さんが多く集まり、動きに合わせて映像や音がリンクする様子に驚き楽しんで頂けていました。

また同じような機会がありましたら積極的にスヌーズレンをお届けさせていただきたいと思います。

(支援部科長 三枝 勅夫)



床に投影した映像に触れると様々な反応が起こる「オミヴィスタ」



様々な感覚グッズを用意しています。



こんなときどうしよう?  
発達相談Q&A

お子様の発達について、こんなご心配はありませんか？

このコーナーはネットワークしまだで連載していた、親御さんからの発達についてのご質問やお悩みに対して専門職が対応方法をご説明するコーナーです。

バックナンバーは島田療育センターのホームページでもご覧いただけます。

Q

2語文がほとんど出ません。どうすれば文で話せるようになるのでしょうか？

A

2語文で話す準備として、「バイバイ」や「おーい」等のやりとりで使うことばや、名詞や動詞等のことばをどれくらい知っているか、話せるかを確認してみましょう。「ブーブ バイバイ」「わんわん おーい」等は、普段のお子さんとのやりとりの中でみられやすい2語文ですね。一方で、「りんごを食べる」という文は「りんご」という名詞と「食べる」という動詞から成り立っており、知っている名詞や動詞が増えると、2語文で話

しやすくなります。

お子さんが単語のみで伝えてくれた際は、大人がさりげなく、2語文でモデルを示してあげましょう。例えば、お子さんが「バス」と言ったら、「バスが来たね」と返してあげるのもいいですね。また、名詞と比べて動詞や形容詞が増えないと相談を受けることがあります。動詞や形容詞は、お子さんが実際に体験している場面で、身振りと一緒にことばかけをしてあげると、ことばと意味がつながりやすくなります。ぜひ、日々の関わりの中で意識してみてください。



(言語聴覚士 黒柳 絢太)

## 自衛消防操法大会に参加しました

10月25日(水)に多摩消防署、多摩災害防止協会主催の自衛消防操法大会に参加しました。今回は、支援部の市川さん、療育部の内山さんと1号消火栓女子隊として出場しました。28チームの企業や団体が大会に出場し、1号消火栓女子隊は島田療育センター1組のみの出場ということもあり、特別賞を受賞することができました。大会に出場し、屋内消火栓の使用方法や災害時にコミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができました。各自が行っている操作のみに集中するの

ではなく、周囲の状況を共有することも迅速に消火する上で大切なことだと感じました。これからも、療育センターの利用者様、職員の安全を守るために防災意識を高めていきたいと思えます。

最後に、協力してくださった方々やチームのお二人に感謝申し上げます。(理学療法士 笠羽 千春)

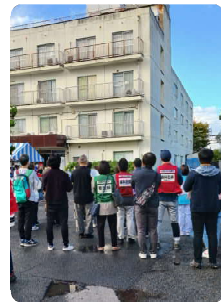


## 自治会総合防災訓練に参加しました

10月28日(土)、中組・山王下自治会の皆様と総合防災訓練を実施致しました。今年は多摩市役所防災安全課の方から「災害時の多摩の被害想定」の講義をしていただきました。さらに消防署から、まちかど防災訓練車に来ていただき、実際にホースを使用した放水訓練、消火器での消火訓練を実施しました。いつ起こるかわからないのが災害です。いざという時に備えて皆さんも日ごろから訓練を受けて災害に備えておきましょう。(医事科主任 大島 新ノ介)

## 多摩市医療系防災訓練に参加しました

10月29日(日)、コロナ禍で中断されていた多摩市医師災害医療委員会と多摩市災害医療ワーキンググループ主催の『多摩市医療系防災訓練』が4年ぶりに開催され、当センターからは8名の職員が参加しました。多摩市役所、日医大永山病院、桜ヶ丘記念病院の3会場に分かれ、本部の情報通信訓練と、トリアージ訓練を中心に行なわれました。多摩市内の病院、クリニック、訪問看護ステーション、大学や高校の学生さん、外国人の方々など総勢280名以上参加の大規模訓練となりました。当日は明け方まで雨でしたが、訓練開始の頃には見事に晴れて青空が広がる中、傷病者役の皆さんの迫真の演技で本番さながらの緊張感のある訓練でした。



久々の大規模訓練で、実地訓練を行うことで見えてくる課題なども確認できる良い機会となりました。前日の自治会との防災訓練と併せて、今後のセンターの防災にも役立てていきたいと思えます。(作業療法士 福島 史)



## お知らせコーナー

### 第18回心理講演会

特別支援教育の最新の動向を踏まえて今できること  
～教科学習のユニバーサルデザイン化と合理的配慮～



日時	2024年1月21日(日)	開催方法	Zoomウェビナー形式 /オンデマンド形式
申込み	Peatixよりお申し込み	参加費	1,100円

### 第21回島田療育センター公開シンポジウム

障害を持つ者の教育と就労―「私」の物語から考える―



日時	2024年2月10日(土)	開催方法	Zoomウェビナー形式
申込み	Peatixよりお申し込み	参加費	500円

詳細は当センターホームページをご参照ください。

## 季節の彩り



クリスマスの季節に向けて、装飾のボランティアさんに冬の飾りをお願いしたところ、快く引き受けていただきました。デイケアセンターの室内に飾られた可愛らしい雪だるまやトナカイたちが訪れる人を楽しませてくれています。

発行者 社会福祉法人 日本心身障害児協会 島田療育センター  
〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

TEL 042 (374) 2071 (代表)

URL <https://www.shimada-ryoiku.or.jp/tama/>

スマホの方は  
こちらから

